

定時制課程

令和5年度 学校評価（分掌等）

本年度の目標達成度 評価基準

- 1 分掌
総務・教務・生徒指導・進路指導・保健・特別活動・研修
- 2 委員会
教育課程検討・キャリア教育推進・校内LAN運用管理
修学旅行検討・支援
- 3 学年部
1年・2年・3年・4年
- 4 教科
国語・地歴公民・数学・理科・保健体育・芸術・英語
家庭・情報・商業・地域環境

A 達成

B ほぼ達成

C やや不十分

D 不十分

1 分掌

令和5年度

総務部

本荘高等学校定時制課程

今年度重点目標	<p>1 全体的な視野で各分掌間の連絡調整を図る。</p> <p>2 P T A・教育振興会・関係諸機関との連携を密にし、教育環境の整備充実と活性化に努める。</p> <p>-----</p> <p><手立て></p> <p>1 分掌間の連携を密にし、校務運営の活性化を進める。</p> <p>2 危機管理マニュアルの全日制との整合性をとって改訂する。</p> <p>3 職員が協力して広報活動を行う体制をつくる。</p>	P	
実施状況・達成状況	<p>1 職員会議など事前に声をかけ、連携を図った。</p> <p>2 全日制の危機管理マニュアルに合わせた形に改訂した。</p> <p>3 校内LAN管理運営委員会と協力し、各行事の担当者がW e b ページの更新を行った。</p>	D	
成果と課題	<p>1 職員会議資料準備の担当を分担した。</p> <p>2 夜間の活動のため全日制とは違う定時制課程独自の危機管理部分が少なくない。 また、危機管理マニュアルを全日制課程と同じような形式にしたが、不審者への対応、熊への対応など変更や追加が少なくないので、必要な変更に対応できないのが課題である。</p> <p>3 職員の協力のもと、管理職に声をかけてもらい、各行事の担当者がW e b ページを更新し、更新の頻度も多くなった。</p>	評価 B (A~Dで)	C
次年度への提言	<p>2 定時制課程は夜間の授業であることから、独自の危機管理マニュアルを作成したい。A 4サイズ2頁程度の別冊として作成し、この部分のみを随時更新するようにしていくことを検討している。</p>	A	

令和5年度

教務部

本荘高等学校定時制課程

今年度の重点目標	<ol style="list-style-type: none">1 新学習指導要領の学習および評価について理解を深める。2 生徒の「わかった！」を引き出す指導を工夫する。3 高校入試業務をミスなく遂行する。 <p>-----</p> <p><手立て></p> <ol style="list-style-type: none">1 観点別に評価方法と様式を適正に運用する。 新指導要録の記載内容の周知・理解を進める。2 研修部、校内LAN運用管理委員会と連携し、タブレット、アプリ等ICT機器の操作・活用の研修を行い、効果的な活用を進める。3 全日制課程との連絡・調整を密に行い、実施要領の作成を早い時期から取り組む。	P	
実施状況・達成状況	<ol style="list-style-type: none">1 観点別評価が各科目の評点・評定に反映される形式になっており、職員による運用も概ね順調である。 現在、本校（定）にあわせた校務支援システムの操作手順について、マニュアルの作成が進行中である。2 全体での研修はまだ行われていない。3 現在、準備を進めている。	D	
成果と課題	<ol style="list-style-type: none">1 本校での取り組みは良好と考えるが、校務支援システムへの移行に際し、同様の処理が可能か不安がある。2 全体での研修は行われていないが、職員間での質問・解説や情報共有は随時行われている。すでに多くの教員がタブレットや電子黒板を活用しており、インターネットからの情報検索なども行われている。	評価 B (A~Dで)	C
次年度への提言	<p>校務支援システムの作成業者と連絡を取りながら、より有効な方法を探り、安定したシステムの運用を目指す。</p> <p>出欠統計等、成績処理における単純なミスを防止するために、確実なチェック作業を徹底できるよう、手順を明確にして周知する。</p>	A	

令和5年度

生徒指導部

本荘高等学校定時制課程

今年重点目標	<p>1 生徒指導部内規の早期整備を図る。 2 安心安全な学校生活を送れるように生徒の自主性・自律性を伸ばす。</p> <p>----- <手立て> 1 周辺高校からの情報収集及び生徒会、職員からの意見を集約し生徒指導部原案を再度全職員で検討してもらい、今年度中の制定を目指したい。 2 非行、事故の未然防止と問題行動発生時の適切な対応。職員打合せでの学年からの連絡、学校生活調査の情報共有を徹底していきたい。</p>	P
実施状況・達成状況	<p>1 生徒指導提要改定にともない周辺高校の校則の見直し案等を参考にし、職員からの意見を集約した生徒指導内規案を作成した。(1月職員会議に案件として提出予定。)</p> <p>2 非行・事故防止の未然防止については、生徒指導だよりや集会での注意喚起、職員打合せでの情報共有が徹底されている。また整容指導を実施することができた。</p>	D
成果と課題	<p>1 周辺の高校でも校則や生徒心得の見直しが進んでおり、選挙運動やジェンダー問題への対応、スマートフォンの取扱いなど、さまざまな問題について今後も検討を続けていくことが必要である。</p> <p>2 職員間で生徒が抱えている問題について情報共有が徹底されており、今後も支援委員会との連携をはかっていきたい。</p>	評価 C B (A~Dで)
次年度への提言	<p>生徒指導内規が制定されたら、本校の生徒心得である「定時の心得」の改定に向けて動きたい。来年度は全校生徒から現行の「定時の心得」の見直しをしてもらい、再来年度の生徒総会で改定案の議決を取りたい。整容指導については来年度以降も継続して実施していきたい。</p>	A

令和5年度

進路指導部

本荘高等学校定時制課程

<p>今年度重点目標</p>	<p>1 卒業予定者全員の進路決定を目指す。 2 進路行事を通して生徒の進路意識の向上を図る。 3 関係機関と連携した進路指導を行う。</p> <p>----- <手立て> 1 公務員や進学など、民間就職以外を希望する生徒への支援を充実させる。 2 「卒業生講話」や「進路体験を語る会」で、聞き手が今後の進路活動に生かせるような話を引き出す工夫をする。 3 ハローワーク等の外部機関と連携し、必要な協力を得る。</p>	<p>P</p>	
<p>実施状況・達成状況</p>	<p>1 11月までに卒業予定者全員の進路を決定することができた。学年任せではなく全職員で指導できた。 2 「卒業生講話」や「進路体験を語る会」は予定どおり実施できた。事前の打ち合わせや準備を念入りに行うことで、進路に関する具体的な行動や心構えなど生徒が必要とする話をしてもらうことができた。 3 ハローワークと連絡を取り合いながら、就職に関する情報を得ることができた。来年度就職予定の生徒について、関係機関と連携を始めている。</p>	<p>D</p>	
<p>成果と課題</p>	<p>1 全員が1回目の応募・出願で内定・合格となった。一部、情報共有がうまくいかない場面があったり、出願書類の書き方であいまいな点があったりした。進学でAOや推薦など入試形態が複数ある場合、本人・保護者と密に連絡をとり情報共有することが重要である。 2 卒業生や進路決定者から生の声を聞く機会は、大変有益であると考え、「卒業生講話」の講師選定は、今年度は2人に断られているので、早めに取りかかったほうがよい。 3 ハローワークの担当者とは連絡を取り合い、良好な関係を築くことができている。また、来年度に向けて特別支援学校の高等学校支援チームと連携を始めているが、これは支援委員会主導である。今後進路指導部が具体的にどのように連携していくか、課題である。</p>	<p>評価 A (A~Dで)</p>	<p>C</p>
<p>次年度への提言</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「調査書・推薦書等作成要領」を全職員に配付して活用する。 ・6月に拡大進路部会（3・4年部と合同）を開き、情報共有を図る。 ・支援委員会と連携を図る。 	<p>A</p>	

令和5年度

保健部

本荘高等学校定時制課程

今重点目標	<p>1 基本的な生活習慣の確立を目指す。 2 思いやりの気持ちを育む。</p> <p>-----</p> <p><手立て></p> <p>1 健康診断結果やライフスタイル調査から得た課題等を職員間で共有し、学級での指導や教科指導、保健指導に生かす。</p> <p>2 自他の気持ちに気づく力や共感力を育むため、行動や感情のフィードバックを行う。また適切なタイミングで、具体的に賞賛や認める言葉がけを行う。</p>	P	
実施状況・達成状況	<p>1 健康診断とライフスタイル調査の結果については、1学期中に回覧等で職員に周知した。事後措置や分析結果については、学校保健委員会で報告、協議を行い、個別の事後指導につなげた。</p> <p>2 健康相談活動の中で、本人の気持ちや行動を言葉にして返すことで、共感される安心感や自分の気持ちへの気づきが得られるよう心がけた。相談記録は関係職員と共有した。</p>	D	
成果と課題	<p>1 学校全体で取り組むべき健康課題や、生徒個々の健康課題について把握し、共有することはできたが、具体的な指導につなげるための方策については、まだまだ改善すべき点がある。</p> <p>2 一対一や少人数の安心できる関係性でも思いやりの気持ちが育まれると考えられるが、地域社会等、より外側に向けた道徳性思考を育むためには、ボランティアなど人と関わる社会経験が必要と思われる。</p>	評価 B (A~Dで)	C
次年度への提言	<p>1 食育の一環として、調理実習を兼ねた保健講話を行う。</p> <p>2 精密検査未受診の生徒への対応として、1学期の保護者面談等を利用して2回目の受診勧奨を行う。</p> <p>3 医療機関を一人で受診することができるよう、縦割り活動等で実践的な学習をする。</p> <p>4 支援委員会や特別活動部と連携して、ゆり支援学校とのワックスがけ等、ボランティア活動への参加を呼びかける。</p>	A	

令和5年度

特別活動部

本荘高等学校校定時制課程

今年度重点目標	<p>1 実社会をよりよく生きるために、コミュニケーション能力の育成を目指す。</p> <p>2 自己実現のための見通しをたてる能力の育成を目指す。</p> <p>-----</p> <p><手立て></p> <p>1 縦割り活動を実施し、各種行事で学年を越えたグループ活動を展開することで、他者への思いやりや規範意識を身につけさせる。</p> <p>2 キャリア・パスポートを有効活用することで、学期末等の確認の機会に、達成の程度を考えさせる。</p>	P	
実施状況・達成状況	<p>1 縦割り活動を計8回実施した。異年齢集団による協働的な活動で、適切なコミュニケーションをとることができた。</p> <p>2 学期始めや学期末、行事等の前後にキャリア・パスポートを記入し、見通しの立案と、自己の取り組みを評価した。今後の予定を確認することで、必要な行動などを考え、適切な準備をすることができるようになった。</p>	D	
成果と課題	<p>1 ルールを守り、他者を尊重することで、適切な言葉遣いでコミュニケーションをとることができるようになってきた。</p> <p>2 見通しをもった行動を考えることができるようになってきた。</p> <p>1、2ともに、実生活で確実に活用することができるかが課題と思われる。</p>	評価 B (A~Dで)	C
次年度への提言	<p>1 実生活へつながるような学校行事等を取り入れる。</p> <p>2 生徒の実態に即したキャリア・パスポートを作成する。</p>	A	

令和5年度

研修部

本荘高等学校定時制課程

今年度重点目標	<p>1 校内研修を充実させる。 2 授業改善に向けた情報発信を通して、授業に生かす。</p> <p>----- <手立て> 1 年2回の授業参観週間や校内授業研究会を実施する。 教務部、校内LAN運用管理委員会との連携を密にする。 校務支援システムの利活用の情報を提供する 2 授業アンケートの内容を検討する。 ICT機器の利用の紹介を行う。</p>	P	
実施状況・達成状況	<p>1 授業参観週間を年2回実施することができた。また、校務支援システムは、利活用情報より、使用方法に関する確認や、問い合わせなどが主となった。この件について、まだ解決すべき課題も現時点では多いため改善情報等の提供しかできなかった。</p> <p>2 授業アンケートは7月と12月に実施したが、情報提供が遅れてしまい、十分に活用することができなかった。また、機器の利用については全職員が積極的に活用して、効果的に活用している。</p>	D	
成果と課題	<p>1 授業参観を活用して、他の教員の授業観察を行い、指導方法を参考にして改善に取り組んだ。今後は、参観の結果を授業にどうフィードバックさせていくのかが課題となる。</p> <p>2 ICT機器は十分に活用できており、今後は、なお一層の活用場面の研究と教材の蓄積が必要である。</p>	評価 B (A~Dで)	C
次年度への提言	<p>今年度からスタートした校務支援システムが、(定時制課程では)来年度から本格的に稼働するため、システムの使用方法を確認し、全職員がミスの無いデータの入出力ができるように、早期に何らかの方法で周知することが必要である。また、情報端末のこれからの対応についての方向性を固め、具体的な対応方法を準備しなければならないし、この件についても周知並びに共通理解が必要である。 指導主事訪問も含めて、定時制独自の授業研究会の計画を立てて、毎年授業研究に取り組みたい。</p>	A	

2 委員会

令和5年度

教育課程検討委員会

本荘高等学校定時制課程

今年度の重点目標	<p>1 旧教育課程・新教育課程の運用を併せて行う。</p> <p>2 新教育課程における指導内容を深める。</p> <hr/> <p><手立て></p> <p>1 旧教育課程（3年次、4年次）の教育課程を運用し、新教育課程（1年次、2年次）の運用も併せて円滑に行う。</p> <p>2 学校設定教科・科目について、指導内容の検討を続け、次年度の学習計画を作成する。</p>	P			
実施状況・達成状況	<p>1 昨年度の変更決定を受け、1年次の地理・歴史科の履修科目を地理総合とした。 旧教育課程と新教育課程のそれぞれを、滞りなく運用できた。</p> <p>2 学校設定教科・科目について、次年度の学習計画を作成した。また、現在普通教科の学校設定科目で実施している内容について、既存の科目として指導が可能か検討を行った。</p>	D			
成果と課題	<p>1 1年次に地理総合を履修したことで、世界の国々の位置関係がイメージできるようになり、次年度以降の歴史総合に役立てられるものとする。</p> <p>2 普通教科の学校設定科目の内容はその目標に応じ、既存の科目よりも領域を絞って指導されており、次年度もこれまでどおり学校設定科目での実施を計画している。</p>	<table border="1"><tr><td data-bbox="1220 1310 1308 1456">評価</td></tr><tr><td data-bbox="1220 1467 1308 1657">B (A~Dで)</td></tr></table>	評価	B (A~Dで)	C
評価					
B (A~Dで)					
次年度への提言	<p>新指導要領における最初の卒業生を送り出す年度として、本校の教育課程の成果や改善点を検証することになる。 これまでの成果や改善点を参考に、令和7年度入学生の教育課程を作成する。 学校設定教科・科目について、引き続き設置の是非や指導内容を検討し、本校の教育課程に特色を与える。</p>	A			

令和5年度

校内LAN運用管理委員会

本荘高等学校校定時制課程

今年度重点目標	<p>1 校内LANの安定した運用を行う。 2 各分掌と連携し、GIGAスクール設備の効果的な利活用を進める。 3 図書コーナーの利用の促進と管理を行う。</p> <hr/> <p><手立て> 1 接続状況を定期的に確認し、全日制課程の担当者と連携して運用する。 2 教務部や研修部と連携し、ICT活用事例の紹介を行う。 3 図書利用の呼びかけを行う。</p>	P	
実施状況・達成状況	<p>1 校内ネットワークの運用については特に問題等はなかった。 2 クロームブック、電子黒板ともに授業等での活用度は高い。なお、1台の端末が破損し、全日制課程の予備機を手配し交換した。 また、校務支援システムは、一部が本運用されているが、全体の利用については、不具合等があり、現在でも頻繁に修正等が行われている。本格的な運用には不安が拭いきれない。 3 当初、図書の更新等の予定がなく、活動内容に大きな変更は計画していなかったが、互助会の図書寄贈対象となり、図書の選考を行い、購入した。</p>	D	
成果と課題	<ul style="list-style-type: none">校内ネットワーク等の運用については、年度当初に多少の混乱があったが、それ以降は、安定して運用され使用していた。各科目で教材を作成し、授業で使用しており、十分に活用されている。校務支援システム関係の導入については、操作が解らなかつたり、不具合等が多くあつたりした。その後修正されているものの、利用については不安定な要素が残りそうである。今回購入した図書の管理と利活用について、利用方法の促進とそのことに関する広報活動計画の作成が必要である。	評価 B (A~Dで)	C
次年度への提言	<ul style="list-style-type: none">現有の生徒端末の保守管理と、令和9年度からの個人端末の利用（BYOD 令和6年度から一部導入可）に向けた実施計画等を作成する。校務支援システムの本格運用に向けて、関係分掌と連携し支援を行う。図書コーナーの整理と、寄贈図書の利用を促進する。その際の利用ルールを確認する。	A	

令和5年度

修学旅行検討委員会

本荘高等学校定時制課程

今年度重点目標	<p>1 本校における修学旅行のあり方について検討する。 2 次年度の修学旅行について、今年度早期の計画立案を目指す。</p> <hr/> <p><手立て> 1 今年度実施の修学旅行や過去の修学旅行の成果を確かめ、次年度以降の検討に生かす。 2 生徒・保護者にアンケートを実施した上で、行き先や活動などを検討し、修学旅行の具体的な行程を作成する。</p>	P
実施状況・達成状況	<p>1 3・4年次の合同で、2泊3日の日程で実施した。当初の積立額では足りず、追加徴収を行った。</p> <p>2 2年次の生徒・保護者を対象にアンケート調査を実施し、次年度の計画を進めた。また、生徒に模擬旅行プランを立てさせ、活動のイメージをもたせるなどした。</p>	D
成果と課題	<p>1 1つの学年が単独で実施するより、修学旅行がもつ集団行動らしさを体験させることはできたが、スケールメリットを得るまでにはいかなかった。業者選定、泊数、日程、移動手段などの制約が大きい。控えめな規模で計画しても、旅行費用は当初の積立額を上回った。</p> <p>2 生徒・保護者ともに希望が多かった東京周辺での旅程を企画することになった。また、生徒が抱く修学旅行への期待や興味・関心を反映させるなど、より充実した計画の作成を目指した。</p>	評価 C B (A~Dで)
次年度への提言	<p>全日制校並みに修学旅行の目的実現や効果を期待するのであれば、3泊4日の旅程や今以上の旅行費用の確保が必要となる。また、複数学年による実施の可能性も考慮に入れたい。</p> <p>少なめに見積もることで追加徴収に頼るよりも、本校の実情を踏まえた、現実的で余裕のある積立額を設定する方が望ましい。</p> <p>複数学年合同の実施も視野に入れ、可能性や問題点を探る。</p>	A

令和5年度

支援委員会

本荘高等学校定時制課程

<p>今年度重点目標</p>	<p>1 生徒の自己理解を促す活動を充実させる。 2 生徒理解・相談活動に関する研修を行う。 3 組織としての支援を充実させる。</p> <p>----- <手立て> 1 教員との面談や、ソーシャルスキルトレーニング等、支援が必要な生徒への個別の支援を継続して行うことで、生徒が得意なこと、苦手なこと等を自覚し、自己理解を深める。 2 教育専門監等と事例検討会を実施し、生徒理解と支援につなげる。 3 高等学校特別支援チーム、外部関係機関と連携し、効果的な支援を行う。</p>	<p>P</p>	
<p>実施状況・達成状況</p>	<p>1 面談週間や縦割り活動、生徒情報交換会の実施等により、生徒の実態把握に努めるとともに、生徒自身が何に困り感をもっているのかについて自覚できるよう働きかけた。</p> <p>2、3 高等学校特別支援チームと連携し、事例検討会を春と冬に2回実施した。個別の生徒に対して効果的・具体的な支援に関する知見を得た。また、SSW（スクールソーシャルワーカー）や地域の行政機関、アルバイト先と連携して、継続的な支援を進めることができた。</p>	<p>D</p>	
<p>成果と課題</p>	<p>1 上記Dにより、職員間での情報共有が深まり、よりきめ細やかな支援が可能になった。 生徒が主体的に課題解決する力を養成することが課題である。</p> <p>2、3 外部機関との連携や情報交換を通して、卒業後の進路に向けての適切な支援について職員間で情報共有を図ることができた。生徒自身が自ら課題を見つけ、考えて行動できるように支援することが課題である。</p>	<p>評価 A (A~Dで)</p>	<p>C</p>
<p>次年度への提言</p>	<p>1 生徒の自己理解を進めることや自分で考える力を付けること、またそれを継続させる。</p> <p>2 熟成されつつある特別支援教育をなお一層進展させる。 各学年で目指す生徒像を確認し、その情報を共有して支援にあたる。</p> <p>3 SSWや地域の外部支援機関、アルバイト先と連携を継続させる。 校外にある相談機関の把握とその連携を図る。</p>	<p>A</p>	

令和5年度

いじめ防止委員会

本荘高等学校定時制課程

今年度重点目標	<p>1 すべての職員がいじめ問題の重要性を認識する。</p> <p>2 定期的にいじめ防止に向けた取組を実施する。</p> <p>3 生徒の様子に係る情報を共有するとともに、組織としての支援を充実させる。</p> <p>-----</p> <p><手立て></p> <p>1 校内研修や具体的な事例紹介等をとおして、いじめに関する共通理解を深める。</p> <p>2 いじめアンケートを年3回実施して状況を把握するとともに、各分掌や外部機関との連携により、効果的な取組を検討、実施する。</p> <p>3 教育相談やカウンセリング等あらゆる機会を捉えて情報収集に努めるとともに、報告、連絡、相談により組織として対応する。</p>	P	
実施状況・達成状況	<p>1 教育相談週間や保護者面談、アンケート調査、学校生活調査、生徒に係る情報交換等様々な手立てにより、生徒の情報収集や兆候の把握に努めるとともに、いじめ問題の重要性を職員間で共通理解ができた。</p> <p>2 秋田県教育委員会による「いじめに関するアンケート調査」や生徒指導部が実施した年2回の学校生活調査によると、いじめ事案やその兆候等は見られなかった。また、生徒指導だよりや集会等での情報発信により、いじめ防止につなげることができた。</p> <p>3 周囲との関わりに苦手意識をもっている生徒が多く、授業や学校行事、個別面談を通して対人関係形成能力を育成中である。また、高等学校支援チームと連携した事例検討会により、生徒理解を一層深め、職員間での情報共有を図ることができた。</p>	D	
成果と課題	<p>1、2 いじめ案件はなかったものの、生徒主体の活動や働きかけの機会を設けることが難しいことが課題である。</p> <p>3 外部機関との連携により職員間で生徒情報の共有を図れたのは大きな成果と考える。 この取組を継続していくことが課題である。</p>	評価 A (A~Dで)	C
次年度への提言	<p>1、2 いじめ発生時に組織的な対応ができるような指導体制を維持する。</p> <p>3 週1回の生徒に係る情報交換等、学校全体で生徒一人ひとりを支援していく体制を継続する。</p>	A	

3 学年部

令和5年度

1 年部

本荘高等学校定時制課程

今年度重点目標	<p>1 基本的な生活習慣の確立を図り、自律した学校生活を送らせる。</p> <p>2 集団の中でともに生きるための豊かな人間性と環境適応力を身に付けさせる。</p> <p>3 働学一体の実現に向け、努力する姿勢と公民的資質を身に付けさせる。</p> <p>-----</p> <p><手立て></p> <p>1 「定時の心得」やクラスのルールを徹底し、個人面談や保護者面談を行い、家庭との連絡を密にする。</p> <p>2 LHR、総合的な探究の時間、学校行事を通してクラスの団結力を高める。</p> <p>3 キャリアパスポートを用いて将来の見通しをもたせ、アルバイトや資格取得などを奨励する。</p>	P
実施状況・達成状況	<p>1 マナーやルールについて、まだ十分に理解できていない生徒がいるため、社会的な事件や事故を事例として捉え、理解を促している。</p> <p>2 生徒同士で不足しているものを補ったり、協力する姿勢が育ってきている。</p> <p>3 社会体験不足や人間関係の構築に不安があるため、アルバイトについて消極的な生徒が多い。</p>	D
成果と課題	<p>多くの生徒が、不登校により集団生活の体験が不足し、社会体験の機会に恵まれてこなかったが、この1年間は、積極的に参加できた大きな1年間であった。スタート地点が異なるため、全員が目標達成できてはいないが、よく頑張ったと思う。この一年間は、未来予想図を描くための情報収集活動の期間であった。</p> <p>同年代の高校1年には劣る面があるが、次年度以降、経験を重ね、これまで不足していた部分を埋めていくことを期待する。</p> <p>また、団体行動についても同様で、時間をかけて経験を積むことが必要である。</p>	評価 C B (A~Dで)
次年度への提言	<p>学校活動における学習、行事、資格取得などに挑戦することはもちろんだが、外部の活動等についても積極的に取り組んでいく中で、人間関係を広げる活動や、自分の経験値を高めたい。</p> <p>今年度、未達成の活動を補い、一段階高い目標（無欠席など）を立てて取り組む。</p> <p>資格取得の機会がなかったため、次年度は挑戦して、取得を目指す。</p>	A

令和5年度

2年部

本荘高等学校定時制課程

<p>今年度重点目標</p>	<p>1 基本的な生活習慣の確立を図り、自律・自立した学校生活を送らせる。 2 学級活動や学校行事を通じて、よりよい人間関係を形成する。集団の中でともに生きるための豊かな人間性と環境適応力を身に付けさせる。 3 一人一人が進路目標を決定し、それらの実現のために学習活動や部活動に積極的に取り組む。</p> <p>----- <手立て> 1 「定時の心得」の確認して学校生活を送らせる。随時、個人面談や保護者面談を行い、保護者との連携を図る。 2 LHR、総合的な探究の時間、学校行事、縦割り活動を通してクラスの団結力を高める。 3 LHR、総合的な探究の時間の学習で将来の見通しをもたせる。アルバイトでの社会経験や資格取得を奨励する。</p>	<p>P</p>	
<p>実施状況・達成状況</p>	<p>1 始業前、放課後の短い時間でも随時個人面談を行った。夏季休業前、と冬季休業前に保護者面談を行った。 2 学校行事や縦割り活動を通して、集団の中で個人の役割を自覚させて行動させた。 3 LHR、総合的な探究の時間の学習で進路学習に多く時間を取り、将来の進路適性について考えさせ、県内外の事業所・職業研究を行った。</p>	<p>D</p>	
<p>成果と課題</p>	<p>1 随時個人面談を行うことで、人数が少ないながらも学級内の人間関係の複雑さや個人の悩みに対応していくことができた。また保護者面談で家庭での様子を知ることができた。 2 学級内での人間関係については、それぞれの性格についてお互いに理解が進んできている。学校を離れる行事や他校の生徒と一緒に行事に出られない生徒が多く課題を感じた。 3 3卒の生徒でも、なかなか進路希望が定まっていない生徒が多いことが心配される。</p>	<p>評価 B (A~Dで)</p>	<p>C</p>
<p>次年度への提言</p>	<p>3卒の生徒については、進路目標実現に向けて学校生活でがむしゃらに頑張る気持ちを育むようにしたい。一方、4卒の生徒も同じ教室内で刺激を受け、自分の進路目標を定めることができるようにさせたい。</p>	<p>A</p>	

令和5年度

3 年 部

本荘高等学校定時制課程

今年度重点目標	<p>1 他者を認め、協調してものごとに取り組めるような、良好な雰囲気 のクラスづくりを目指す。</p> <p>2 3卒の生徒には進路実現を目指させ、4卒の生徒には具体的な進路目 標を設定させる。</p> <p>----- <手立て></p> <p>1 あいさつや感謝の言葉が自然と出るような雰囲気づくりに務める。L HRや総合的な探究の時間、学校行事などで様々なグループを設定し、 他者と接するバリエーションを広げる。</p> <p>2 生徒面談や3者面談を通して、共通理解を図る。セミナーやオープン キャンパスなど情報提供に努め、参加を推奨していく。</p>	P	
実施状況・ 達成状況	<p>1 席替えや清掃の班の交替などを定期的に行い、人間関係が固定化され ないよう、新たな人間関係が形成されるように務めた。 決して活発とは言えないが、良好な関わりができるようになってきた と感じる。</p> <p>2 先生方のご協力のおかげで、3卒の生徒は全員、進路決定することが できた。4卒の生徒については、3卒の生徒の姿を見て、少しずつ進路 に対する意識が出てきたように感じる。</p>	D	
成果と課題	<p>1 クラスが3年目になったこともあるせいか、クラスメイト同 志、互いの性格や人となりを理解したうえで接している姿が見 られた。 3卒の生徒が抜け、人数が半分になるので、また新たな関係 性をつくって行かなければと思っている。</p> <p>2 3卒の生徒全員の進路実現が果たせてよかった。担任の力だ けでは何ともできないことがあり、周りの先生方に協力してい ただけでありがたく、助かった。</p>	評 価 B (A~Dで)	C
次年度への 提言	<p>4卒の生徒5名が残ることになるが、進路指導については今年度と比較 して難儀することが予想されるので、生徒と面談を重ねたり、情報収集さ せたりして進路意識を高めさせたい。 クラスのメンバーがかわるので、良好な人間関係を維持していけるよう、 引き続き、あいさつや感謝の言葉など基本的な生活習慣を心がけさせたい。</p>	A	

令和5年度

4年部

本荘高等学校定時制課程

今年度重点目標	<p>1 進路実現に向けて自ら行動し、目標を達成できるよう支援する。</p> <p>2 最高学年としての自覚をもち、学校行事等で活躍できるようにする。</p> <p>3 社会人としての心構えや生活習慣を身に付けさせる。</p> <hr/> <p><手立て></p> <p>1 担任・副担任と複数回の個人面談を行い、6月までには最初の三者面談を実施して、やるべきことを明確にする。</p> <p>2 学校行事や縦割り活動等で生徒をよく観察し、場面に応じた適切なアドバイスを行い、自信をもたせ自己肯定感を高める。</p> <p>3 遅刻・欠席を減らすため、声かけをし、保護者と連絡を密にする。また、卒業生や先輩から話を聞く機会を有効に活用する。</p>	P
実施状況・達成状況	<p>1 2名とも1回目の就職試験で内定を得ることができた。複数回の面談や早めの三者面談により、就職に向かう意欲を高めることができた。</p> <p>2 やや控えめではあるが、最高学年としての自覚をもち、周りに関わろうとする姿勢が見られた。</p> <p>3 2学期の欠席が多くなってしまった。体調管理や気力の維持ができず、残念であった。保護者とは連絡を取り合い、情報共有できた。</p>	D
成果と課題	<p>1 6月に三者面談を実施したことで、生徒・保護者の意志を確認し、その後の就職活動をスムーズに進めることができた。 夏休みの出校日を7日間設け、職場見学の礼状書きや就職試験対策にあてたが、欠席が多かったため、夏休みで面接練習を仕上げるができなかった。</p> <p>2 縦割り活動、球技大会、なべっこなどで、後輩に積極的に声をかける姿が見られた。キャリアパスポートや学級日誌でも「4年生として」「先輩として」という表現が多く見られ、自覚をもって行動できていた。</p> <p>3 入学時から欠席の多い生徒たちではあるが、就職を強く意識する1学期は欠席が減った。内定を得てからまた欠席が多くなり、気持ちの面を含めた指導の難しさを実感している。</p>	評価 C B (A~Dで)
次年度への提言	<p>(来年度の4年部へ)</p> <ul style="list-style-type: none">・6月までの早めに三者面談を実施する。・夏休みの出校（進路学習）について、早めに検討し計画を立てる。・1学期中に整容指導を実施し、生徒の状態を把握する。・欠課時数を定期的に把握する。	A

4 教科

令和5年度

国語科

本荘高等学校定時制課程

今年度重点目標	<p>1 社会で必要とされる基礎的な漢字・語彙力の定着を図る。</p> <p>2 言語活動を充実させ、文章読解力・自己表現力を向上させる。</p> <p>3 新聞ワークシートや書き写しシートを用い、様々な視点から物事を考えさせ客観的な意見をもたせる。</p> <p>-----</p> <p><手立て></p> <p>1 授業において国語辞典、漢和辞典、タブレット端末を積極的に活用させる。振り返りで定着を確認する。</p> <p>2 話し合いや読解の成果を、単語ではなく一定量の文章として発表する機会を設け、表現力を付けさせる。</p> <p>3 新聞コラムや最新の時事を授業で取り扱い関心をもたせる。</p>	P
実施状況・達成状況	<p>1 教科書本文を初読の際は、国語辞典を活用して、語句調べをさせた上で漢字・語句プリントに取り組ませた。</p> <p>2 教師からの質問への回答には理由・根拠を述べ文章として答えられるように指導した。</p> <p>3 読売新聞ワークシートや秋田魁新報コラム、意見文を活用し、新聞記事の精読を行った。タブレット端末を利用し書かれている内容について詳しく調べさせた。</p>	D
成果と課題	<p>1 辞書を引いて言葉の意味を確認するのに非常に時間のかかる生徒もいて、授業内容の進度に差が出てしまうことがあった。</p> <p>2 単語での回答になってしまう生徒がほとんどで、面接対策などのキャリア教育にはなかなかつながらないが、単語での回答であっても、その回答の理由・根拠を述べさせるようにした。</p> <p>3 生徒の興味・関心の薄い新聞記事にも目を向けて、社会の流れに目を向けるように指導することができた。漢字・語句の学習においては、国語辞典やタブレット端末を活用して使える語彙を増やせるように指導した。</p>	評価 C B (A~Dで)
次年度への提言	<p>今後も使える語彙を増やし、他教科の教科書の内容をしっかりと読み取れるように漢字・語句学習を徹底し、まずはきちんと教科書の内容を読めるようにさせたい。</p> <p>その上で、キャリア教育の面接、作文対策につながるように自分の意見を論理的に説明できるように指導していきたい。</p>	A

令和5年度

地歴・公民科

本荘高等学校定時制課程

今年度重点目標	<p>1 言語活動の前提となる基礎的・基本的な学力を定着させる。</p> <p>2 言語活動を中心とした学びの場をつくる。</p> <p>3 現代の社会情勢に目を向け、様々な視点を考え、客観的な意見をもたせる。</p> <p>-----</p> <p><手立て></p> <p>1 基礎的・基本的な用語の理解に努めさせる。ICT機器を有効に活用する。地理に限らず、地図帳の活用を積極的に取り入れていく。</p> <p>2 学んだことを記述形式で表現する場を設ける。</p> <p>3 就職・進学試験も視野に入れ、時事問題を取り上げる。</p>	P	
実施状況・達成状況	<p>1 小テストなどで復習を行い、基礎的・基本的な学力の定着に努めた。タブレットや電子黒板などのICTや地図帳、地球儀などを用いて生徒の関心や意欲を高めるようにした。</p> <p>2 生徒同士で話をさせたり、全体の場で発表させたりして言語活動の場をつくるように心がけた。</p> <p>3 就職や進学の試験を視野に入れ、時事的な話題を入れるようにした。「今日のニュース」という時間を設定し、生徒にニュースを収集させ、発表させる時間を設けた。</p>	D	
成果と課題	<p>1 学力差があり、何を復習問題にするのかの判断に困ることがあった。また、定着率があまりよくなく、時間をおくと忘れていたことがあった。</p> <p>歴史科目しか受けていない生徒は地図帳を持っていないので使用するのが難しかった。</p> <p>2 発言したり、記述したりできる生徒が増えてきているように感じた。もっと自己発信の場を設けていいように感じた。</p> <p>3 「公共」や「現代社会」などの公民科では時事問題を取り入れやすいが、地理歴史では難しいと感じることもあった。</p>	評価 B (A~Dで)	C
次年度への提言	<p>引き続き、基礎基本を大切にして言語活動に繋げられるようにしたい。自分の言葉で記述や発表できる生徒が増えてきているので、生徒を信頼して、より記述や発表の場を設定したい。</p> <p>資料をもとに考える活動により、生徒の思考力・判断力・表現力を高めたい。</p> <p>教師自身がニュースや地域の話などに対してアンテナを張り、情報収集に努めたい。</p>	A	

令和5年度

数学科

本荘高等学校定時制課程

<p>今年度重点目標</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 望ましい学習態度を育む 2 基礎的・基本的な学力の定着を図る 3 数学的思考力を育む <p>-----</p> <p><手立て></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 学習に望ましい雰囲気を作るよう努める。 2 複数の到達目標を設定し、上位者を伸ばすように指導する。 長期休業中に小学校以降の基礎学力の宿題を出して指導する。 3 複数の情報の中から必要な情報を読み取る力を身に付けさせる。 日常生活における題材を通して数学的思考の大切さを実感させる。 	<p>P</p>	
<p>実施状況・達成状況</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 計算力向上のため、5～10分程度のパズルに取り組みさせた。問題の答えを出すことよりも、問題を理解し、取り組もうとするチャレンジを励ました。 2 クラスの状況に応じた複数の到達目標に対して、上位者向けに少し難しい課題も取り入れた。 長期休業中に小学校以降の基礎学力の宿題を出した。 3 長期休業中の課題の中に割合（値引き等）などの日常生活における問題や複数の情報の中から必要な情報を読み取る問題も出題した。また、教科書の指導内容でも日常に関わる問題設定を心がけた。 	<p>D</p>	
<p>成果と課題</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 少しずつパズルの状況を見抜いて完成する力が向上し、自信をもつ生徒が増えた。授業に真面目に取り組む姿が見られた。 2 3年の3卒希望者のクラスは難しい問題にも全員が取り組んだ。一方で2年の3卒希望者のクラスは、通常の問題でさえも投げ出す生徒がいて、課題の設定に苦慮した。 3 長期休業中の基礎学力の宿題は、日常生活で会うような問題を繰り返す必要を感じている。その中に、複数の情報の中から必要な情報を読み取る問題などを取り入れていきたい。 	<p>評価</p> <p>B (A～Dで)</p>	<p>C</p>
<p>次年度への提言</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 パズル的な問題で導入することを継続したい。また、正解を出すことより、理解して取り組もうとする姿を励ます。 2 どのクラスも個人差が大きいので、授業を簡単に感じてしまう生徒に対して、少し考える問題を準備する。また、互いに教え合う場面を意図的に増やす。 3 基礎計算や比例式、割合など日常生活でも使う内容については、繰り返して指導を行う。 	<p>A</p>	

令和5年度

理科

本荘高等学校定時制課程

<p>今年度重点目標</p>	<ol style="list-style-type: none"> 身のまわりの事象への興味・関心をもたせる。 物事を科学的にとらえ理解できるようにする。 自らの考えを、まとめ、表現する習慣を付けさせる。 <p>-----</p> <p><手立て></p> <ol style="list-style-type: none"> 観察や実験、演示の機会を設ける。 自分の考えを整理しまとめる時間や、生徒間での意見交換の場を設け、他者の考えとの比較を通し、学びを深めさせる。 ペアワーク、グループワークを通し表現する機会を多く与える。chromebookを活用し、レポートなどを作成させる。 	<p>P</p>
<p>実施状況・達成状況</p>	<ol style="list-style-type: none"> 「科学と人間生活」や「化学基礎」において事象の演示を、「生物基礎」や「地学基礎」において観察を実施できたが、生徒が主体的に進める実験は行えなかった。 導入に身の回りの事象や話題を提示し、知識や思考の共有を図った。 「十分に」とまではいかなかったが、ペアやグループによる作業や討議、意見集約による発表の機会を設けた。また、chromebook を利用し、情報検索等を行った。 	<p>D</p>
<p>成果と課題</p>	<ol style="list-style-type: none"> 実際の事象への関心や認知が低く、提示した話題や演示と学習内容を関連づけられない者が少なからずいた。 ・ 3 指導者からの問いかけに対して反応が乏しく、理解度が測りにくい集団であっても、生徒間での意見交換や作業では主体的に活動する場面が見られた。一方で、集団（学年）による理解力・知識の差が大きく、学びを一律に深めさせるには至っていない。また、情報の収集や整理において、ICT活用スキルの技量差が目立った。 	<p>評価</p> <p>C</p> <p>B (A~Dで)</p>
<p>次年度への提言</p>	<p>生徒の興味・関心・実態に応じて、提供する話題を精選する。</p> <p>ペア・グループによる活動が効果的な場面を選んで、意見をまとめたり発表する場を設ける。</p> <p>生物や地学の領域、また、物理と化学の領域のうち日常生活に関わる部分など具体的な事象を扱う教材においては、ICTを利用した情報収集の機会を増やしていく。</p>	<p>A</p>

令和5年度

保健体育科

本荘高等学校定時制課程

今年度重点目標	<ol style="list-style-type: none">1 運動経験を積み重ね、楽しさや喜び、心地よさを味わい、生涯にわたって運動に親しむ態度を育む。2 実生活における心身の健康の保持増進をする態度を育む。3 スポーツとの多様な関わり方を知り、共生する態度を育む。 <p><手立て></p> <ol style="list-style-type: none">1 運動ができることで楽しさや喜び、心地よさを味わい、対話や協力等の他者と関わる課題解決の方法により自己有用感を実感させる。2 実生活と結びつけた心身の健康課題を提示し、解決に必要な情報を適切に選択・収集・活用する活動を取り入れる。3 得手不得手、障害の有無にかかわらず、楽しむ方法を学び、尊重し合い、認め合いながら、協力して展開する活動を取り入れる。	P	
実施状況・達成状況	<ol style="list-style-type: none">1 各種の運動やスポーツを経験することで、基本的な知識技能を実践した。基本的な知識技能ができた時に、楽しさや喜び、心地よさを味わうことができた。2 実生活で想像できる健康課題を教材として扱った。今後の生活で心身の健康を保持増進するためにどうするかを考えることができた。3 協働的な活動を取り入れることで、自他の状況を認め合いながら活動をした。どのように高めていくかを考え、協力しながら活動することができた。	D	
成果と課題	<ol style="list-style-type: none">1 運動やスポーツの基本的な知識技能を理解し、実践できるようになってきた。高校卒業後に、運動やスポーツに関わる時間を確保することができるかが課題と考えられる。2 実生活で起こりうる健康課題を理解することができた。一次予防を考えた日常生活をできるかが課題と考えられる。3 自他の状況を考慮した話し合いと実践を通して、基本的な知識技能を身に付けることができた。現状に満足することなく、さらに高いレベルを目指すことができるようになることが課題である。	評価 B (A~Dで)	C
次年度への提言	<ol style="list-style-type: none">1 さらなる運動やスポーツの楽しみや喜び、心地よさを味わうことができる活動を工夫する。2 ライフスタイルに応じた運動やスポーツの取り入れ方を考えさせる。3 健康課題の一次予防、二次予防、三次予防を日常生活へどのように取り入れることができるかを考えさせる。	A	

令和5年度

芸術科

本荘高等学校定時制課程

今年度重点目標	1 筆やペンの持ち方、整った文字の書き方をそれぞれ身に付ける。 2 日常生活に用いられる実用的な書を練習する。 3 表現を工夫し、書の創作を楽しむ。 ----- <手立て> 1 基礎・基本を重視した反復練習から、正しい字の書き方を習得する。 2 キャリア教育の一環として、履歴書や礼状等の実用的な書を練習する。 3 表現の楽しさや完成の喜びを味わうことができる教材を作成することで、自己肯定感を養う。	P
実施状況・達成状況	1 お手本となる動画を視聴し、繰り返し丁寧に書写することで、正しい文字の書き方を学ぶことができた。 2 履歴書や礼状を書く意味や相手方への思いやりを知り、文字で自分の気持ちを表現するための型を学ぶことができた。 3 篆刻を通して、デザインを考える楽しさを知り、石を削り作品を完成させ、お互いに鑑賞し合うことで、達成感を感じる事ができた。	D
成果と課題	1 正しい文字の書き方を学び、反復練習するが、実際に文字を書くときには、もどに戻る生徒が多くいた。 習慣を変えることは難しいと考えた。 2 礼状の書き方を高校2年生はすぐに応用する機会に恵まれた。 集中して書く力はついたように見える。 3 デザイン段階で作品の完成度が決まることがわかった。	評価 C B (A~Dで)
次年度への提言	1 正しい文字の書き方を反復練習する機会を増やす。 書かれた文字を相互に鑑賞して、評価し合う環境を設定する。 2 礼状の書き方は継続して実施していくといいと考える。 進路指導部や学年部との連携も継続して行っていく。 3 篆刻のデザインを考える際に、ある程度の難易度を求めてもよいと考える。	A

令和5年度

英語科

本荘高等学校定時制課程

今年度重点目標	1 基礎・基本の定着を図る。 2 コミュニケーション活動を充実させる。 3 上位層の生徒への指導を工夫する。 ----- <手立て> 1 プリントやワークブック、口頭や記述など、様々な方法で基礎・基本の練習を繰り返す。フラッシュカード代わりに電子黒板を有効に使う。 2 「定時制英語会話」の練習を継続して使える英語を増やし、ヒントカードを利用することで、答えるだけでなく質問もできるようにする。 3 発展問題やT2との会話練習など、意欲に応じて取り組めるようにする。	P	
実施状況・達成状況	1 基礎・基本の定着のために、時間をかけて繰り返し指導したが、個人差が大きい。全体的に真面目に取り組むが、なかなか定着しない生徒もいる。 2 授業の初めに毎回行っている「定時制英語会話」はルーティーンとなっており、抵抗なく英語を口にする生徒がほとんどである。 3 学力差が大きいクラスでは、全員が取り組む問題と上位者向けの挑戦問題の両方を準備したり、学習プリントの中に早くできた人用の発展問題を入れたりした。	D	
成果と課題	1 基礎・基本の指導では説明が多いと飽きてしまうので、声を出したり、ペア・グループワークをしたり、ゲームをしたりなど、様々な活動を通して身に付けさせるようにした。しかし、いずれの活動も、音声と文字がうまく結びついていない生徒にとっては難しいようだ。フラッシュカード代わりに電子黒板を使った語彙の練習には意欲的に取り組む生徒が多いが、学年によって差がある。 2 1年生から継続して行っている「定時制英語会話」は、4年生で No. 13 になった。授業の最初約5分間を使ってペアで会話練習を行い、定期考査ごとにスピーキングテストを実施した。成績はおおむね良好であった。 3 学年によっては上位層がかなり厚く、短時間で学習プリントを終わらせてしまう生徒もいる。挑戦問題や発展問題で対応したが、TT（ティームティーチング）をうまく利用する方法を検討する必要がある。	評価 B (A~Dで)	C
次年度への提言	・「定時制英語会話」を継続する。 ・効果的なTTのあり方について検討する。	A	

令和5年度

家庭科

本荘高等学校定時制課程

今年度重点目標	<p>1 学んだ知識及び技能を、生活の中で活用できるような題材・教材を開発する。</p> <p>2 授業で学ぶ知識や技能が、自分の生活と深く結びついていることを実感させる。</p> <hr/> <p><手立て></p> <p>1 主体性を引き出す教材を精選し、指導法を工夫する。</p> <p>2 身近な題材を設定する。</p>	P
実施状況・達成状況	<p>1 実際の賃貸住宅を検索する活動や、自分たちのスマホ使用料を調べる活動等を取り入れ、現実的な教材を取り入れるよう工夫した。 調理実習を複数回行い、調理の基礎を学習させ、自分たちで作り方をアレンジさせる実習も実施した。</p> <p>2 住生活分野や経済生活分野において、一人暮らしの生活を想定した学習活動を取り入れた。また、金融教育として資産運用の基礎を学習させた。</p>	D
成果と課題	<p>1 生徒たちは自身や身近な大人の生活経験を意欲的に発表し、数年後に自立して生活することをイメージしながら学習活動に取り組んでいた。 授業や調理実習を通して、他者とのコミュニケーションが徐々に取れるようになってきている。</p> <p>2 授業中の発言は活発に行えるが、自身の考えやふり返りを記述することへの苦手意識が強くみられる。</p>	評価 C B (A~Dで)
次年度への提言	意見や振り返りの記述内容についての評価規準を明示し、記述の活動のねらいが伝わるような指導を心がける。	A

令和5年度

情報科

本荘高等学校定時制課程

今年度重点目標	<p>1 コンピュータや情報活用について理解を深め、技術を習得する。 2 問題解決のために情報と情報技術を適切に活用する力を養う。 3 情報社会に主体的に参画する態度を養う。</p> <p>-----</p> <p><手立て> 1 パソコンやスマートフォンなどそれぞれの特性と、ネットワークについての理解を深める。 2 プログラミングを経験し、目的に応じた考え方を学習する。 3 情報モラルやセキュリティの学習を取り入れ、情報社会へ関わる態度を身に付ける。</p>	P	
実施状況・達成状況	<p>1・2 通常の教科書を使用した授業に加えて、オンライン教材を利用し体験的な活動も取り入れながら進めたため、技術面ではある程度の能力が身に付いた。また、動画も活用し、より現実的な内容を確認しながら実施した。</p> <p>2 著作者の権利と個人の権利(個人情報)といった内容を主に取り扱い、新聞記事など用いて、情報社会において、侵害したり、侵害されたりしている状況を紹介し、自ら被害者にも加害者にもならないよう確認した。</p>	D	
成果と課題	<p>1 これまで、周囲から情報社会に関する注意や、啓蒙活動に触れる機会がなく、現在の自分に関わることとしての臨場感が不足しているようだが、内容を深めていくと危機感をもって実習などに取り組むようになってきたようだ。</p> <p>2 この生徒たちが、将来社会に出て、親になった時には、学校だけでなく、家庭内でも情報モラルやセキュリティについて話す機会があることを願いたい。</p>	評価 B (A~Dで)	C
次年度への提言	<p>県教委が契約したオンライン教材と、本校で使用している教科書との間の整合性が、今ひとつで、あちこち飛ばしたり戻ったりといったことが多かったため、どちらをメインにするか、また、場合によってはオンラインを使用しない単元があっても良いと思う。また2単位では、実習に時間をかけることができないため、そこでの実習時間の確保について検討が必要である。</p>	A	

令和5年度

商業科

本荘高等学校定時制課程

今年度重点目標	1 商業に関する基礎的な知識と教養を定着させる 2 ビジネスソフトウェアの活用技術など、幅広いコンピュータ操作を身に付けさせる <hr/> <手立て> 1 日常生活と結びつけ、具体的なイメージをもたせるようにする 2 ワープロソフトウェアや表計算ソフトウェアを活用した授業を行う。タイピング練習など基本的なことを繰り返し定着させる。	P
実施状況・達成状況	1 商業科目は、実技を伴う実習が難しい単元もあるため、視聴覚教材を併用しながら、授業を行い、知識の定着を図った。 2 実習ができない部分についてはその内容について調べ学習を取り入れながら、授業を展開し、確認した。また、年間を通して、情報技術の習得を図るため、タイピングや入力練習の時間を確保した。	D
成果と課題	1 年間を通して、実習を主にした科目については、技術の習得の後、活用的な課題に取り組み、定着を図った。一方で座学が多い科目について、調べ学習やロールプレイングを行い、メリハリのある授業を行い、定着できるようにした。 2 年間を通して、文字入力技術を高めるための時間を割いて、取り組ませた。そのこともあり、生徒間での極端な差は付かなかったが、欠席の多い生徒には、今後差が広がることも予想される。	評価 C
次年度への提言	全員が同じ実習を行い、同じ成果物ができても、将来どのように活用できるようになるかが重要である。そのために考えて取り組める課題や、その生徒の興味関心と関連させた課題を準備し、利用技術の習得を目指す。 この実習は何ができるようになるかを明確に示し、理解を深めながら活用できるようにする。	A

令和5年度

地域環境科

本荘高等学校定時制課程

今年度重点目標	<ol style="list-style-type: none">1 地域の自然環境と人とのかかわりについて理解させる。2 秋田県の魅力や観光資源、文化の豊かさについて関心をもたせる。3 考えをまとめ、自分の言葉で人に伝えられるようにする。 <p>-----</p> <p><手立て></p> <ol style="list-style-type: none">1 地域の具体的な事例を取り上げ、魅力を伝える。2 テーマをしぼったり、秋田県以外の都道府県と比較させたりしながら分析・整理させる。3 他者に伝わるような表現方法やまとめ方を意識させる。	P	
実施状況・達成状況	<ol style="list-style-type: none">1 秋田県や由利本荘市の自然や人物を題材にして、テーマを設定し、具体的に組み立てることができた。2 由利本荘市以外のことに関して、生徒は知らないことが多く、各テーマごとに新たな発見をしていた。他の都道府県との違いに着目させることで秋田県や由利本荘市のよさを感じやすそうにしていた。3 Googleのドキュメントやスライドにまとめさせたが、回を重ねる毎にまとめ方や伝え方に習熟していった。	D	
成果と課題	<ol style="list-style-type: none">1 テーマ次第で生徒の取り組み方に差が出た。できるだけ興味を引くようなテーマにしたが、身に付けさせたい内容との兼ね合いから、生徒があまり興味をもてないテーマを扱うことがあり、バランスが重要であると感じた。2 基礎的な知識が不足している生徒に関心をもたせるのが難しかった。3 Googleのドキュメントやスライドに習熟するにつれ、できることが増えて完成度が高くなっていった。	評価 B (A~Dで)	C
次年度への提言	<p>次年度は、4年生は「地域社会」と「地域科学」に分かれて行う最後の年となり、3年生は「地域環境」がスタートする年となる。特に、3年生の「地域環境」に関してはスムーズな運用を心がけたい。</p> <p>生徒の関心を引いたテーマを洗い出し、よりよい計画を策定していきたい。同時に、地域の情報収集に努めたい。</p>	A	

令和5年度

キャリア教育

本荘高等学校定時制課程

今年度の重点目標	<ol style="list-style-type: none">1 金銭管理、生活管理、マナーなど社会生活に必要な知識・技能を身に付けさせる。2 職業や自分の将来、自己実現の道筋を考え、考えたことを表現できる力を育む。3 自分の将来や未来の社会について真摯に向き合い、問題を解決しようとする態度を育成する。 <hr/> <p><手立て></p> <ol style="list-style-type: none">1 働くことの意義を理解させ、社会人としてのマナーやスキルを身につけさせる。2 自己理解を深めさせ、将来について具体的に考えさせる。3 キャリアプランを作成させ、将来の社会に向き合う心を育む。	P	
実施状況・達成状況	<ol style="list-style-type: none">1 社会で必要とされる一般常識的な知識・技能を身につけることができた。今年度から実施の一般教養Aは、教材について試行錯誤しながら進めた。2 将来について、自分の言葉で発表したり伝え合ったりすることができた。3 社会や政治の課題に対し、生徒自身ができることについて向き合うことができた。	D	
成果と課題	<ol style="list-style-type: none">1 授業担当者の専門によっては、扱う内容に偏りを生じる恐れがある。2 他者との関わりで自己理解を深める場面が見られたが、人とのコミュニケーションを嫌がる生徒が多いクラスでは難しいと考えられる。3 社会の課題について取り扱い、それに対して自分たちがどのような立場にいるべきか考えることができた。 欠席者が多い科目では、計画を大幅に変更することになった。	評価 B (A~Dで)	C
次年度への提言	<p>一般教養Aでは、今後、問題集・新聞・ワークシート以外の教材について、蓄積を目指していく。</p> <p>令和6年度から「一般教養」(一般常識)に代わり、「一般教養B」(非言語分野)、「一般教養C」(一般常識)が加わる。科目間の連携・分担を図り、生徒のキャリアに関する力を付けさせたい。</p>	A	